

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立一宮小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

かしこく やさしく たくましい 児童の育成
 ・自ら学ぶ子ども
 ・思いやりのある子ども
 ・最後までやりとげる子ども
 ・健康で明るい子ども

今年度の指導の重点

- 基礎学力の習熟を図り、学ぶ喜びを体験させる。 ・人の話はしっかり聞く。
- 互いに認め合い、励まし合う態度を育てる。 ・相手を大切にした言葉づかいをする。
 ・自分が言われていやなことは言わない。
 ・あいさつをする。
- 根気よく、責任をもってやりぬく態度を育てる。 ・一生懸命掃除をする。
- 健康で安全な生活態度を育てる。 ・チャイムが鳴ったらすぐに教室へ入る。
 ・ろうかは右側を静かに歩く。 (下線 北陵中ブロックでの共通取り組み)

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国
 国語、算数ともにA問題は県平均より高い。
 漢字の正答率は高く、特に「書く」の正答率は高い。
 「数と計算」、「量と測定」の領域で、県平均を超えているものが多い。
 算数Aにおいて、正答率の分布が昨年度は学力低位層・中位層・上位層の3つにはっきり分かれていたが、なだらかな山になっており、下位層の児童が少しずつ減少してきている。
 B問題については国語・算数ともに全国・県平均を下回っている。
 理科については全国や県平均とほぼ同じであるが、校内の正答率の散らばりが大きく、正答率の低い児童が多い。
 条件に合わせて記述する問題では、国語・算数ともに県平均を下回っている。
 「数学的な考え方」の観点においては、県平均を大きく下回っているものもあり課題が大きい。
 国語・算数ともに記述式の問題の正答率が下がり、無回答率が上がる。
 主語や述語、必要な情報の読み取りなど、低学年や中学年で学んだことの定着や系統的な指導が必要なものに課題がある。

【学習状況調査の結果】

全国
 理科の勉強に興味をもって意欲的に取り組んでいる割合が県平均より高く、昨年度よりも高い。
 授業などで自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることに苦手意識をもっていない児童の割合が県平均を大きく上回っている。
 普段、1日あたりのスマートフォンやインターネットの使用時間が県平均に比べて短い。
 普段、1日あたりのテレビやDVDなどの視聴時間はほぼ平均並みである。
 地域の行事に参加している児童の割合が全国平均より高い。
 総合的な学習の時間で、自分で課題を整理したり、調べたことを発表したりする活動が不十分である。
 家庭での学習時間が平日・土日ともに県平均より短い。
 家庭学習で、学校の授業の復習や予習をしている割合が県平均より低い。
 学校の授業以外での読書量が県平均よりも短い。
 自分によいところがあると感じている児童の割合が低い。
 将来の夢を持っている児童の割合が県平均に比べて低い。

成果と課題

基礎学力の向上に努めてきた結果、A問題については国語・算数ともに全国平均を上回ったが、活用型の問題がいずれの教科においても県平均を下回っており課題がある。
 授業などでわからないことに直面した時、自分で調べたり、あきらめずに最後まで学習する児童の割合が県平均に比べて低い。
 授業などで自分の考えを発表したり書いたりすることに苦手意識を感じている児童の割合は低くなっているが、活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりするところまでは至っていない。
 授業の中で、わかりやすく筋道を立てて説明したり、理由を付けて話したりすることに課題がある。
 家庭での学習の内容が宿題のみになり、自分で考えて勉強したり、予習・復習をしたりする児童の割合が低い。
 家で、自分で計画を立てて勉強をすることができていない。
 A問題で課題のあった領域や問題に取り組んだ結果、「少数の計算」で5ポイント以上上昇し改善が見られた。
 昨年度に比べるとA問題では、学力上位層と下位層の差が縮まってきている。今後もさらなる取り組みが必要である。

課題に対応した改善方法

- 自分で学ぶ力をつける。 授業・家庭学習の改善
 ・教科の内容や言語を使って、自分の言葉で説明する活動を授業の中に取り入れる。
 ・授業の中にペアや班、全体での交流活動を位置づける。
- 授業と授業をつなぐ家庭学習を行う。 家庭学習の行い方の改善
 ・宿題の評価の仕方を工夫し、指導の改善につなげる。(児童がつまづいているところの抽出、出題問題の分類など)
 ・家庭で宿題の答え合わせと直しをさせることにより、自己評価と間違いをそのままにしない学習スタイルを身に付けさせる。
 ・家庭学習に予習や復習、自主学習などを出し、必要なことを自分で考えて学習する習慣を身に付けさせる。
- 下位層の子どもの学力を上げる。 補充学習の時間の確保の検討
 ・時程を工夫し、放課後に補充学習を行う。
 ・学力下位層の児童の学習意欲の向上や解き方の習得を図る。

取組の検証方法及び検証時期

岡山県学習到達度確認テストを活用する。(単元終了時)
 児童へのアンケートの実施(11月)
 1, 2, 3の取り組みの実施(2学期から高学年において)
 1, 2, 3の取り組みについての検証と改善(2学期末)
 下学年における1, 2, 3の取り組みについての準備期間および全職員での共通理解(3学期)
 全学年一斉での取り組み(平成28年度4月から)

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

- 各教科の授業の内容が「よくわかる」と回答する児童の割合を全国平均より5ポイントプラスにする。
- 予習・復習に取り組む児童の割合を現状より10ポイント以上上げる。
- 補充学習を行うことによって、A問題については全国平均以上、B問題については県平均以上にする。